

山科本願寺跡現地説明会資料

所在地 京都市山科区西野左義長町23-1、23-4
調査面積 620 m²
調査期間 1998年8月17日～継続中
調査機関 (財)京都市埋蔵文化財研究所

概要

山科本願寺は、文明十年(1478)蓮如上人により造営が始められ、同十二年には御影堂が落成し、同十五年(1483)頃には主要な施設が整った。山科本願寺は、堂舎が建ち並ぶ「御本寺」「内寺内」「外寺内」や防御施設として土塁と堀などで構成され、寺域は南北1km、東西0.8kmに及んだと推定されている。

山科本願寺は寺内町の経済的発展に支えられ、大いに繁栄したが、天文元年(1532)細川晴元、近江国守護六角定頼、法華衆徒、延暦寺(山門)等の連合軍の攻撃により焼け落ちた。

山科本願寺の調査は、1973年以降各所で継続的に実施している。その結果、井戸・石室・建物・溝・土壙・暗渠排水路・鍛冶場など、寺域内の生活や生産活動に関連する施設を検出している。

今回の調査状況

土塁 西半部のみ残っている。土塁と堀底の高低差は、約8mほどである。西面部の傾斜面は急勾配で、人力で容易に登ることができない。

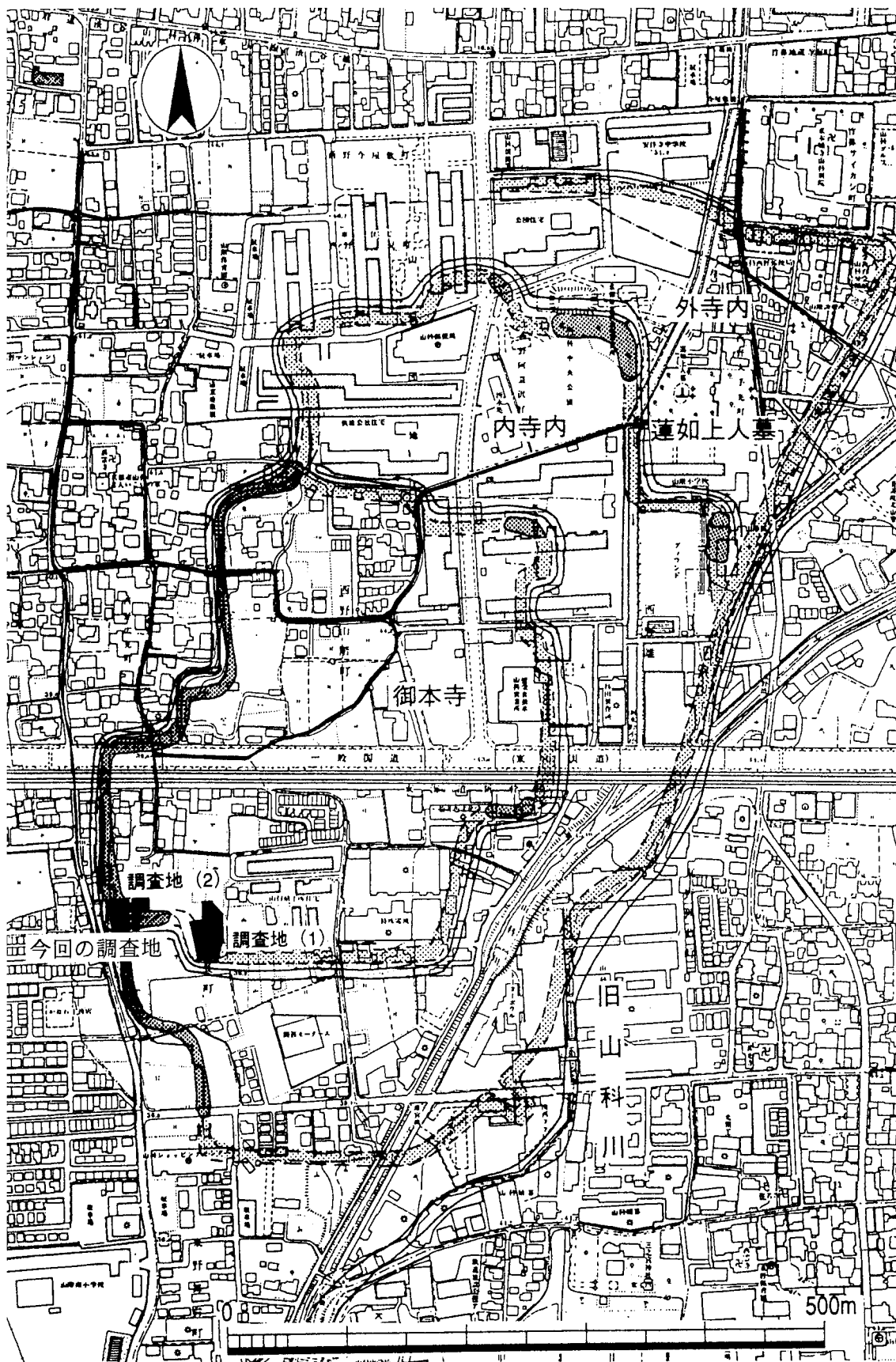
暗渠排水路 昨年度の調査で発見した石組み暗渠排水路の続きである。検出した位置や排水路の底部が急勾配で西側へ傾斜していることなどから、発見した石組みは出口に近い部分と推定している。

堀 堀の深さは約1.5mと浅い。水際には、護岸などの施設は一切見られなかった。埋土からは、遺物はほとんど出土していない。暗渠排水路の出口付近の焼土は、落城の焼土や昨年調査した寺内の鍛冶場から流れ込んだものと推定している。

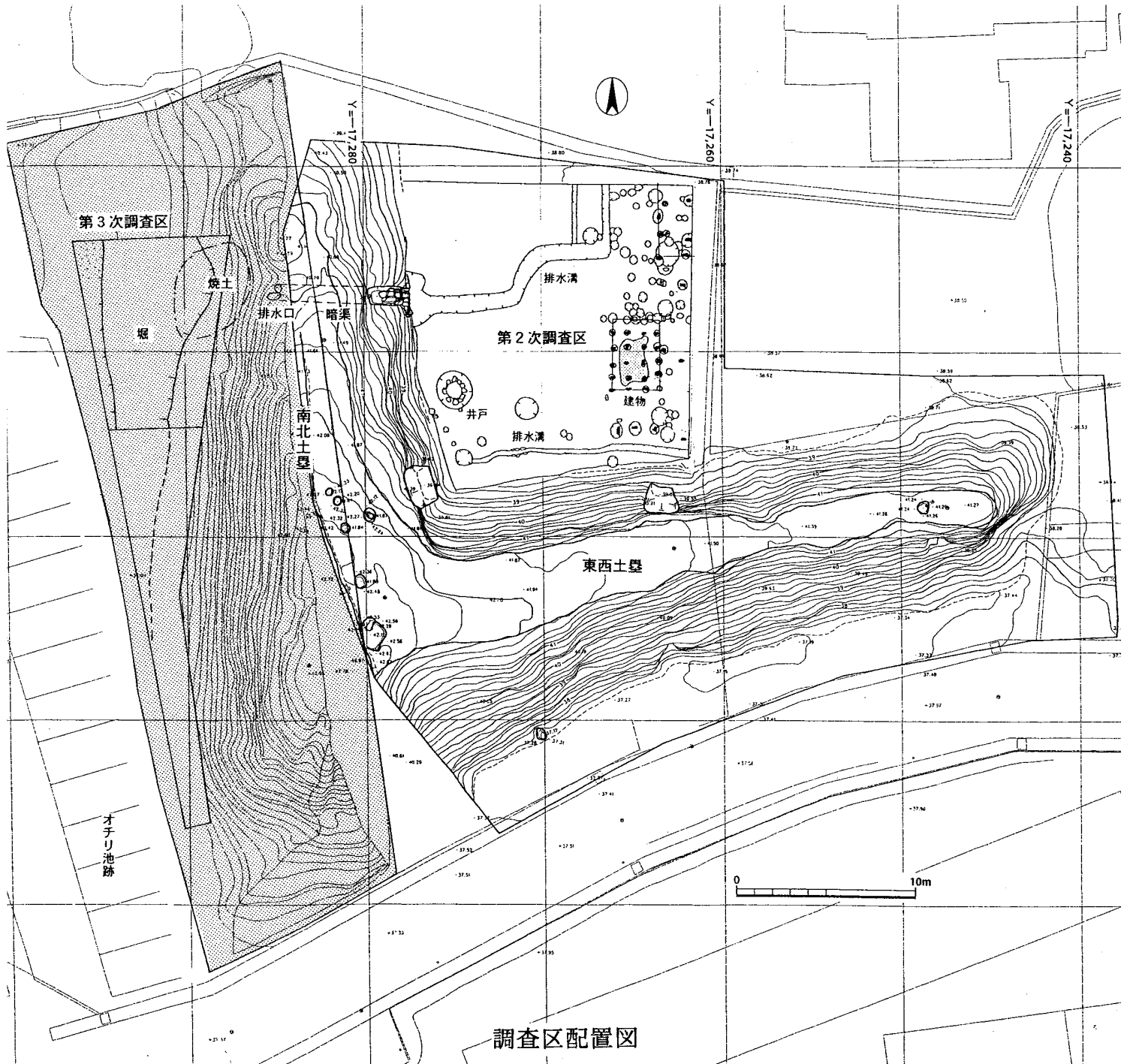
なお、調査地の南西にあったオチリ^{*}(池)は、堀が溜め池として改修され長く使用されていたものと思われる。

※「オチリ(池)」について

近代まで残っていた池。山科本願寺の西南部の堀。天文元年(1532)の焼き討ちの時、敵が乱入したところが「水落」と呼ばれる所である。「オチリ」は「水落」の有力な候補地である。現在、土塁西側の堀と推定しているところはすべて埋め立てられ、駐車場となっている。



調査位置図



調査区配置図

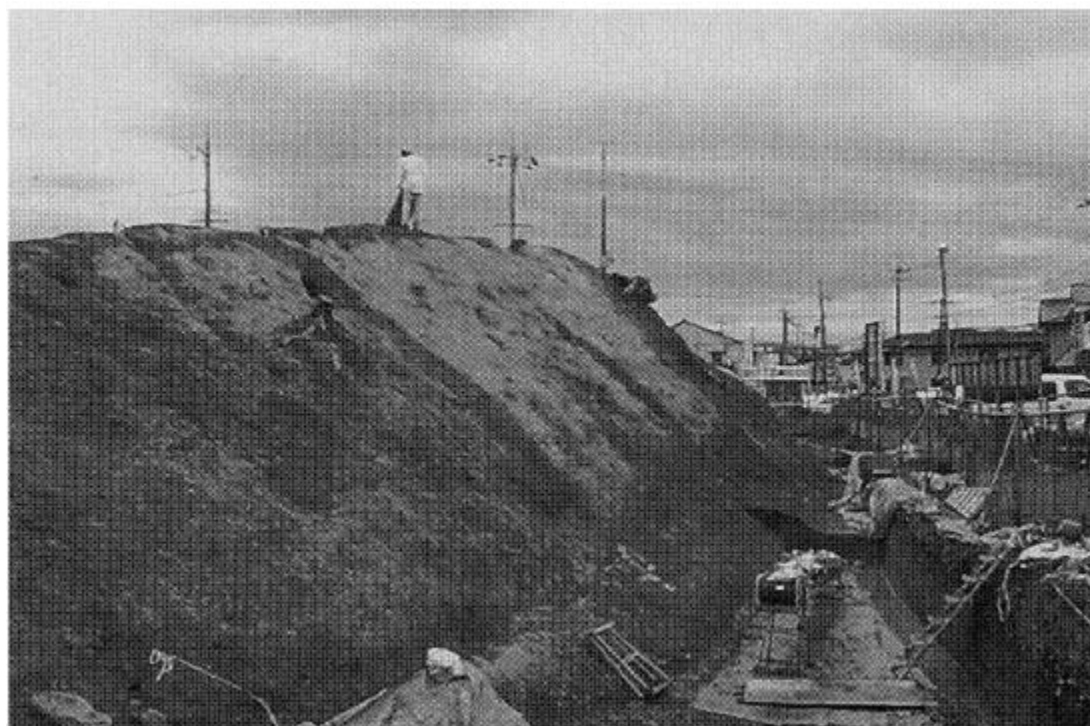


写真1 調査中の土塁と堀（北から）

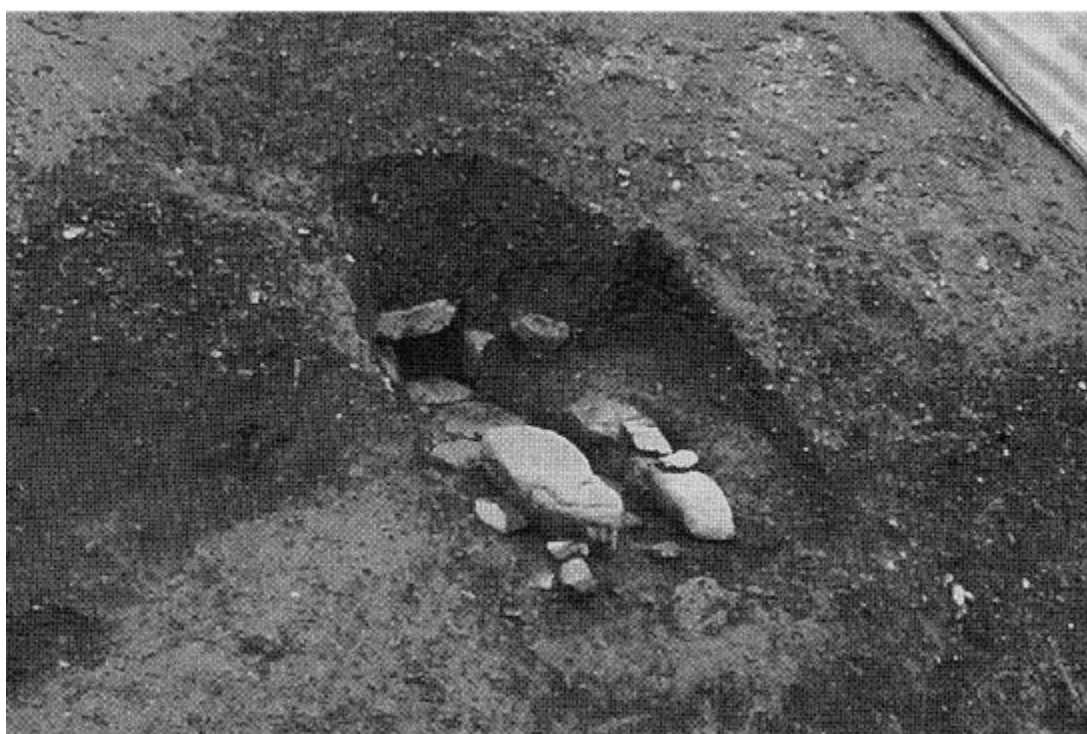


写真2 暗渠排水路出口（北西から）



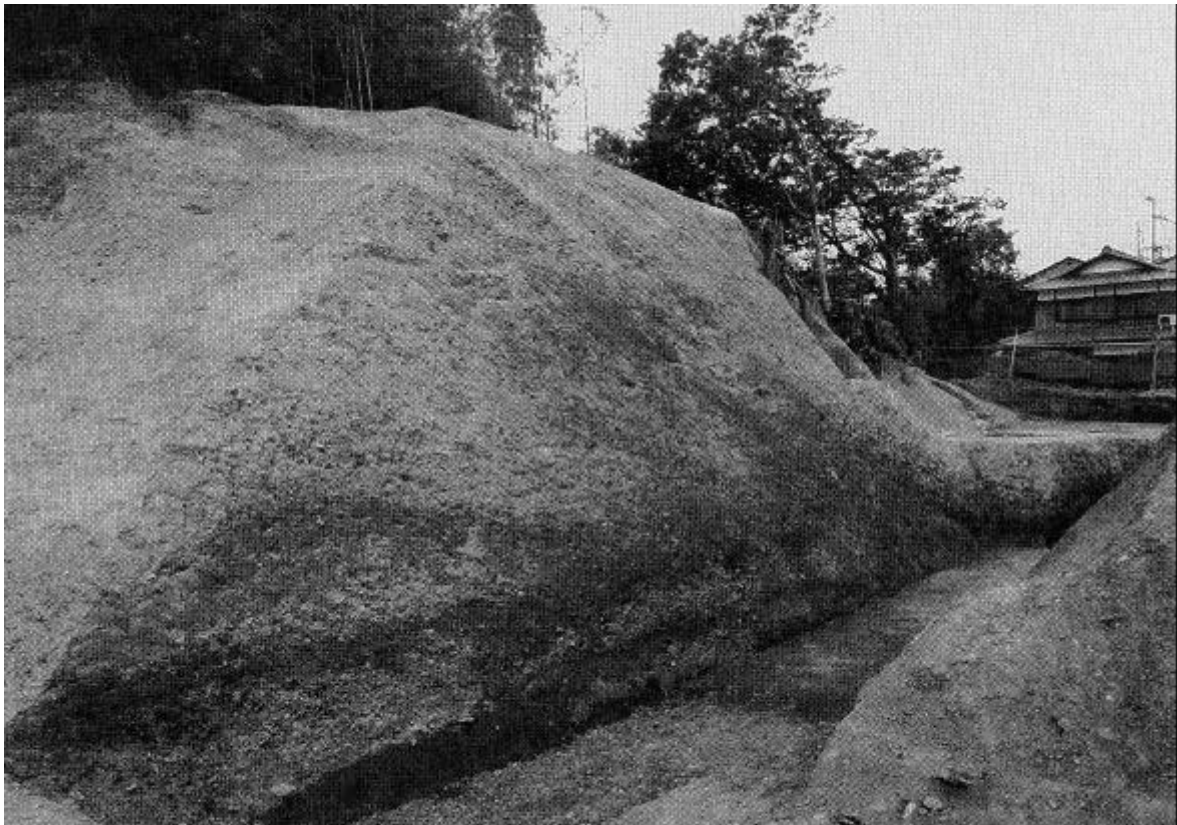
調査地遠景（南から） 1997年撮影



調査地2 全景（北東から）



調査地2 暗渠排水路（東から）



調査地2 東西土塁断割り断面（南東から）